

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年10月27日(17:00~18:00)

1. 初期支援(はじめのかかわり)

メンバー 小中・茨木・栄井・松田・高島・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	5	4	1	12

前回の改善計画	
①	相談から新規登録、利用までの流れをマニュアル化し、統一した対応ができる体制を整える。
②	スタッフ全員が共有できる体制を整える。 ・新規登録者の相談時にケアに必要な項目を確認することをまとめた書式を作成する。又は現在ある書式を活用できないかを検討する。 ・利用者本人や家族の気持ちや心配、意向を十分に確認するため、利用開始前に本人・家族を交えてのカンファレンスの実施など、話し合う機会を持つ。利用開始後も本人や家族と話をする時間を作り、利用開始後の気持ちの確認や心配事の確認を行う。
③	業務日誌、個人の日々の記録の内容をケアプラン②に落とし込む流れを統一する。 ・利用開始後の業務日誌や個人の日々の記録で記入した本人や本人を取り巻く環境の変化をケアプラン②に分かりやすく記入する。

前回の改善計画に対する取組み結果	
①	相談から新規登録、利用までの流れのマニュアル、新規登録者の相談時にケアに必要な項目を確認することをまとめた書式を作成できていないが、新規受け入れの流れはスタッフ全員がおおよそ把握できている。新規の利用者の情報やニーズを計画作成担当者や利用者担当スタッフが聴き取り、書面作成し、スタッフ全員が利用前に確認できるように回覧している。
②	利用開始前の情報共有に同じツールを使用することで、以前に比べ支援方法などが統一できている。回覧されている新規の方の情報を参考に、それぞれ専門職の視点で必要な情報や環境を確認し、共有している。利用前の訪問時に出来る限り本人や家族と話をする時間を作り、意向や心配事などを確認している。その内容を申し送りなどでスタッフ間に情報提供し、話し合う機会を作っている。利用初期の本人や家族の不安や要望、気持ちの確認や話し合いはできている方とできていない方がいる。利用開始前の本人や家族を交えたカンファレンスにスタッフが満遍なく参加できている状況でない。
③	利用開始時の記録を細やかに記入することで、本人の様子がスタッフ間で共有できている。利用開始前に本人や家族から聞き取った情報をケアプラン②に反映している。しかし、初回開始後は利用者個々の日々の記録をケアプラン②に落とし込むことや利用者個々の変化をケアプラン②に記入できていない状況もある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3	8	1	0	12
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	10	0	0	12
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	3	8	1	0	12
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2	10	0	0	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	・新規の利用者が孤立しないように、スタッフの紹介や他の利用者の紹介、スタッフが間に入り会話につながりやすい環境を作るなど、関係が作りやすい支援を行っている。

- ・事前の情報を参考に、本人が不安なく利用できるように配慮できている。その場や人に慣れるように、声をかけたり、丁寧に説明や確認をしている。
- ・本人の状態や要望に応じて、通いや訪問など必要な支援が提供できている。
家族から活動して欲しいと希望がある利用者には、本人に参加の気持ちを確認しながらタオルたたみや体操、園芸活動、ドライブなどの声をかけ、支援できている。
- ・利用開始前の本人や家族と話し合った内容を事業所の申し送りなどでスタッフに情報提供し、話し合う機会を作っている。利用開始まもない時期の本人の様子を家族に伝え、利用後の心配事も家族に確認している。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・新しく利用されている方とゆっくり話をする時間が持ておらず、利用者の気持ちや心配事は十分に確認できていない。利用初期の段階に話をする時間をどのように作るのかという工夫を考えるとことや利用している不安や要望を意図的に確認することができていない。
- ・利用開始間もない時の本人の様子を家族に伝えきれていない場合もあり、利用開始時の家族との関係づくりには差が見られる。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① 相談から新規登録、利用までの流れをマニュアル化し、スタッフ誰でも統一した対応ができる体制を整える。
- ② スタッフ全員が共有できる体制を整える。
 - ・新規登録者の相談時にケアに必要となる項目を確認することをまとめた書式を作成する。又は現在ある書式を活用できないかを検討する。
 - ・利用者本人や家族の気持ちや心配、意向を十分に確認するための話し合いの時間（本人、家族を交えての利用前カンファレンスの実施など）を利用前後に持つ。
 - ・利用開始前に本人や家族から得た情報をケアプラン②に記載し、スタッフ間で共有する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年10月27日(17:00~18:00)

2. 「～したい」の実現(自己実現の尊重)

メンバー 小中・茨木・栄井・松田・高島・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	0	7	4	1	12

前回の改善計画

- ① 本人の目標やケアプランの内容を意識した実践、記録が行えるような場所に綴り直す。
・日々の記録の横にプランを綴じ、それを意識して支援が行えているかを定期的を確認する。
- ② スタッフの気づきや本人のしたいことを得た場合は、記録(個人記録・業務日誌・センター方式C-1-2シート、ケアプラン②)に記載し、カンファレンスや日々の申し送りの中で実践につながる話し合いを持つ。

前回の改善計画に対する取組み結果

- ① ケアプランの内容や目標が確認しやすいように、綴る場所を見直した。それにより、以前と比較してケアプランの確認がしやすくなり、目標や支援内容が確認しやすくなっている。
- ② 利用者の様子や支援時の気づき、「～したい」ことなど、個人記録に記入できている。毎日の申し送りでも共有できている。「～したい」と伝えてくれる方には、スタッフで共有し、計画や調整を行い、ドライブや誕生日にしたいこと、食べたいもの、美容院に行きたいなどの支援ができている。爪を切って欲しいやマッサージをして欲しいなど、日常なことにも応えている。スタッフの配置や状況を見ながら、利用者本人とどのように取り組むのか、いつ行くのかなどを一緒に考える状況も作っている。しかし、目標や「したいこと」が利用者全員から聞けていない状況や利用者本人から聞けていない状況もある。伝えることが困難な方には以前の暮らしなどの情報を参考に考えることが十分でない。また、ケアプランの内容にある「地域との関わり」の部分への取り組みについても十分でない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?	1	1	9	1	12
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	6	5	0	12
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	0	7	3	2	12
④ 実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	5	4	1	12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・利用者本人の支援を行っている時は、本人の話しや意向をしっかり聴く姿勢を持ち、利用者個々の「～したい」を定期的を確認し、日々の暮らしの中で実践できるように努めている。担当となっている利用者については話を聞くことや「～したい」という思いを確認できている。
- ・ケアプランの目標や内容で「筋力の維持」や「清潔を保つ」など、介護の部分に関することは日々の支援として取り組んでいる。実践したことについて、毎日の申し送りの中で共有、相談を行っている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・ケアプランに記載されている目標がスタッフ間で十分に共有されておらず、利用者個々の「～したい」目標と支援がかけ離れている場合がある。スタッフ個々が担当している利用者の目標は意識できているが、担当ではない利用者の目標やプラン内容への意識が薄い。
- ・本人の言葉で目標を分かっている利用者や目標が明確に分かっていない利用者との差がある。関わりや情報から考えることができていない。利用者との日常会話などは行えているが、目標やプラン内容を意識して、気持ちや意向などを確認するために意図的に会話をすることや関わる事ができていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① スタッフの気づきや本人の「したいこと」を得た場合は、記録（個人記録・業務日誌・センター方式 C-1-2 シート、ケアプラン②）に記載し、カンファレンスや日々の申し送りの中で実践につながる話し合いを持つ。
- ・利用者一人ひとりの自己実現に向けて、ケアプランの目標や内容を具体化させるために、利用者と一緒にいる時間を作り、利用者個々の「したいこと」を確認する。「したいこと」をどのように取り組んでいくのかを本人と一緒に考える。
- ② スタッフ1人ひとりの気づきやアセスメントの質を高める。
- ・利用者の支援、関わりからの気づきや考察を個人記録の「家族・介護者」欄に分かりやすいように記載する。
 - ・カンファレンスや日々の申し送りの中でスタッフが気づいたことや考察したことをその場で伝え合うことや個人記録の「家族・介護者」欄の記載内容を共有する。
 - ・利用者との関わりや会話する場面で「気づきや考察したこと」の確認や「ケアプランの内容」を意識する（意図を持った会話や関わり）。

事-②

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年10月27日(17:00~18:00)

3. 日常生活の支援

メンバー 小中・茨木・栄井・松田・高島・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	2	8	2	12

前回の改善計画	
①	利用者のサービス利用以前の暮らしや本人らしさが分かる情報が取れるように、家族が記載しやすい様式を作成し、契約時等に家族に渡し、記載に協力してもらえる環境を作る。 ・センター方式を参考に記載しやすい様式を新たに作成する。 ・渡した時に家族に記載方法について説明する、渡した後の返却の確認や記載のフォローなど。
②	サービス利用後に本人の以前の暮らしや本人らしさが分かるように家族を交えたカンファレンスを年1回以上、開催する。利用者本人が毎回参加できる環境を整える。 ・利用者本人や家族が参加しやすい、話しやすい雰囲気を作る(開催する場所、参加する人数、参加しやすい時間・曜日等)。 ・カンファレンスで得た情報をセンター方式やケアプラン②に記載していく。
③	かかわりの質の向上に向け、「かかわる理由」や「かかわり方」「一緒に過ごすこと」について、スタッフ間で話し合う時間を作る。 ・一緒に過ごし、かかわり、得た情報を記載しやすい方法をスタッフ間で検討する。

前回の改善計画に対する取組み結果	
①	家族が記入しやすい様式の作成が行えていないため、利用前の家族からの情報が薄く、利用者個々の自宅での生活環境や生活状況、以前の暮らしの情報が少ない。
②	カンファレンスを開催する時は必ず利用者本人が参加できるように調整できているが、家族を交えてのカンファレンスの開催が少ない。利用者によって家族とのカンファレンスの開催頻度に差が見られる。 ケアプラン②やセンター方式への記載・更新が十分に行えていない。
③	「関わりの質の向上」についてスタッフ間で話し合う機会や検討する機会が十分に持てなかった。利用者に関わりを持つ時に、相手が話しやすい雰囲気づくりや相手の話を聴く姿勢を意識するなど、前回の自己評価時と比べ、利用者と一緒に過ごすことや関わる時間が持っている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	0	0	8	4	12
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5	7	0	0	12
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	0	7	5	0	12
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	7	5	0	0	12
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	4	7	1	0	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	・日々の体調の変化の確認や入浴などの機会を利用しての身体状態の確認を行っている。気づいたことはその日のリーダーに報告することや業務日誌や個人記録に記載し、その日の申し送りなどで情報共有できている。必要に応じて看護職員に報告している。自分の状態を表現しにくい利用者については、その時々様子から考察することやスタッフ間での相談が行えている。

- ・利用者本人のことで気づいたことや体調の変化を他のスタッフに相談し、その時々本人の状態や状況に応じた支援につなげている。必要に応じて支援の方法も変更している。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・利用者本人の声にならない声の把握については、支援する側（スタッフや家族など）の意見が多く、本人の声が支援に反映されていない。
- ・体調の変化への支援はできているが、利用者本人の気持ちについての支援については、調整する時間がかかることが多く、即時的な支援までには至っていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① 利用者のサービス利用以前の暮らしや本人らしさが分かる情報が取れるように、家族が記載しやすい様式を作成し、契約時等に家族に渡し、記載に協力してもらえる環境を作る。
 - ・センター方式を参考に記載しやすい様式を新たに作成する。
 - ・渡した時に家族に記載方法について説明する、渡した後の返却の確認や記載のフォローなど。
- ② サービス利用後に本人の以前の暮らしや本人らしさが分かるように家族を交えたカンファレンスを年1回以上、開催する。利用者本人が毎回参加できる環境を整える。
 - ・利用者本人や家族が参加しやすい、話しやすい雰囲気を作る（開催する場所、参加する人数、参加しやすい時間・曜日等）。
 - ・カンファレンスで得た情報をセンター方式やライフサポートワークプラン②に記載していく。
- ③ かかわりの質の向上に向け、「かかわる理由」や「かかわり方」「一緒に過ごすこと」について、スタッフ間で話し合う時間を作る。
 - ・一緒に過ごし、かかわりの中から得た情報を活用できる方法をスタッフ間で検討する。

事-③

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年11月3日（18:00～19:00）

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 小中・茨木・栄井・荒井・野呂
羽田・松田・澤田・川端・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？		4	6	2	12

前回の改善計画	
①	利用者個々の住み慣れた地域の情報（社会資源や祭事など）を得ていく。利用開始前後に利用者一人ひとりの軒下マップを作成し、利用後に新しい情報を追加することで暮らしの広がりにつなげる。
②	利用者それぞれの情報の差をなくすために、計画作成担当スタッフや各担当スタッフが中心となり、情報を得ていく。得た情報をアセスメントシート（センター方式）や軒下マップに記入する。 ・利用者本人とそれぞれが馴染みある場所に出かけてみる。 ・家族との話し合いの場面や送迎時等等など家族と話ができる機会を利用して、情報収集する目的を説明し、協力が得られる関係性を作る。一緒にアセスメントシート（センター方式）や軒下マップを作れる機会を持つ。
前回の改善計画に対する取組み結果	
①	利用開始前後に利用者の軒下マップが作成できていないため、利用後に新しい情報を追加するまでの環境が整っていない。
②	利用者個々の知り得た情報を軒下マップに落とし込めていない。作成できていても更新されていない。利用者や家族と一緒に軒下マップを作ることができていない。 家族と話をする時間や利用者や利用者個々の地域に出向くことが少なく、利用者の今までの暮らしの情報や馴染み場所や人の情報が薄い。本人の暮らしを支えるための利用者個々の社会資源が分かっていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係を理解していますか？	1	7	4	0	12
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	2	9	1	0	12
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	1	5	6	0	12
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	6	6	0	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	<ul style="list-style-type: none">・利用者が住んでいる地域で開催されているいきいきサロンにサービス利用後も継続して参加できるように支援できている。事業所がある地域で開催されているいきいきサロンにも参加できている。・利用者に関わる時間を作り、自宅でどのように過ごしているのか、これまでの暮らし、生活の中でのこだわりなどの情報を得ている。・一人暮らしの方に関しては、生活スタイルを把握するために、意識しながら関わることができている。・利用者によって、家族から利用者が住んでいる町のお祭りや行事、その様子の情報を得ている。また、情報にあった資源や関係性が途切れないように、その場所の人や関係者に協力を依頼している場合もある。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	<ul style="list-style-type: none">・地域に関する情報を得る機会や得ようとする意識が薄いなどの理由があり、利用者によって個々の情報に差が大きい。

- ・事業所以外の時間をどのように過ごしているのかが把握している状況は利用者によって差が見られる。
- ・利用者の今までの暮らしの情報や馴染みの場所や人の情報があっても、その場所に出かけることができていないことが多い。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① 利用開始前後に利用者一人ひとりの基本となる軒下マップを作成する。
- ② 利用者それぞれの情報の差をなくすために、計画作成担当スタッフや各担当スタッフが中心となり、利用者個々の住み慣れた地域の情報や馴染みの場所や人の情報、生活スタイルに関する情報を得ていく。得た情報をアセスメントシート（センター方式）や軒下マップに追加していく。
 - ・利用者本人とそれぞれが馴染みある場所に出かけてみる。
 - ・利用者と関わりながらアセスメントシート（センター方式）や軒下マップを作ってみる。
 - ・カンファレンスの場面でアセスメントシート（センター方式）や軒下マップを準備し、本人や家族などから情報を得て追記していく。利用者個々の担当スタッフはカンファレンス前にアセスメントシート（センター方式）や軒下マップの確認、準備を行う。

事一④

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年11月3日（18:00～19:00）

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 小中・茨木・栄井・荒井・野呂
羽田・松田・澤田・川端・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	1	5	4	2	12

前回の改善計画	
① 利用者本人、家族を交えたカンファレンスを定期的に開催し、提供しているサービスや取り組みが本人や家族の意向に合っているのかを確認する。	
② スタッフの気づき、考察を高め、チームとして柔軟に判断・対応できる体制を更に整える。 ・支援状況やその時の本人の様子、その時の気づきや考察を分けて個人記録に具体的に記録する。 ・全体の申し送りを活用し、柔軟にサービスや取り組みを考え、決めていく。地域の資源の活用も含めて考える。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
① 計画作成担当者や利用者個々の担当スタッフが必要に応じて、家族と話し合っている状況はあるが、全体的に本人や家族を交えたカンファレンス自体が定期的に開催できておらず、本人や家族とサービスのあり方について話をする機会が十分に持てていない。	
② 利用者個々の記録にスタッフの気づきや考察を記載している。気づきや考察したことをサービス調整や支援などにすぐにつなげることができるようにスタッフ間で共有し、話し合うこともできている。ただ、利用者の様子などから考察する意識が薄い状況や気づき・考察しても個々の記録に十分に記載されていない状況も見られる。利用者個々の記録についても利用者の様子やスタッフの対応などが具体的に記載されていない状況が見られる。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	2	6	4	0	12
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	5	6	1	0	12
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか？	6	6	0	0	12
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	6	6	0	0	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・その日、その時の利用者個々の状態から気づいたことに対して、本人や家族と相談し、その状況に合わせた支援や環境を整えている。昨年の自己評価と比較して、利用者一人ひとりとの関わりを意識できしており、利用者の気持ちの把握や変化への気づきが上がっている。	
・支援方法の変更や検討も本人の状態に合わせて、スタッフ間で話し合っている。その日出勤していないスタッフに情報やサービス等の変化が共有できるように業務日誌に具体的に記入することや毎日の申し送りで伝えている。	
・急な「泊り」の希望にも空きがあれば、受け入れている。「通い」や「訪問」の追加や時間の変更など、本人の状態や家族の状況に合わせて、その日のスタッフで調整し、柔軟に支援できている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・家族の力や利用者個々の暮らしに必要な地域資源が活用できるような話し合いが行えていない。それを活用するためのアセスメントの不足や家族、地域資源との話し合いの不足などがあり、適切な環境を整えられていない。	
・希望をあまり伝えられない利用者や家族へのサービスの見直しや追加などの提案ができていない。スタ	

ップの視点でサービスの内容や環境を考えてしまう場合もあり、考えたことを本人や家族に提案し、意見を確認するまでに至っていないこともある、

- ・その日のスタッフの勤務帯の違いや毎日の申し送りにそのタイミングで参加できる、できないによって、スタッフ間での情報量に差が見れたり、情報が共有されていない場合はある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① 利用者本人、家族を交えたカンファレンスを定期的を開催し、提供しているサービスや取り組みが本人や家族の意向に合っているのかを確認する。
・利用者本人や家族と自立支援の視点や地域の資源の活用を含めた話し合いが行える環境を整える。
・カンファレンスに利用者個々の記録からのスタッフの気づきや考察が伝えられる工夫を行う。
- ② スタッフの気づき、考察を高め、チームとして柔軟に判断・対応できる体制を更に整える。
・支援状況やその時の本人の様子、その時の気づきや考察を分けて個人記録に具体的に記録する。
・全体の申し送りを活用し、柔軟にサービスや取り組みを考え、決めていく。地域の資源の活用も含めて考える。
・事業所として考察したことをサービスとして提供する前に、利用者本人や家族に事前に提案し、意見を確認する。サービスを提供後はその様子を記録に具体的に記載していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年11月3日（18:00～19:00）

6. 連携・協働

メンバー 小中・茨木・栄井・荒井・野呂
羽田・松田・澤田・川端・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	5	5	0	12

前回の改善計画	
①	毎週木曜日に取り組んでいる「ものづくり活動」の場面を活用し、地域の方に案内し、参加を呼びかける。 ・感染予防の視点も入れて、段階的に交流できる方法を考える。 ・地域の方が求めていること、どのような場所があると良いのかという情報が得ながら、地域の方と「ものづくり活動」の内容一緒に考えていただけるような関係性を作る。
②	小規模多機能ホームやたののこを知ってもらう。 ・事業所の取り組みや考え方、雰囲気分かる通信を配布する場所を広げる。町内への回覧を再開する。 ・困ったことがあったら相談できる場所、地域の方が気軽に立ち寄れる場所であることを通信や交流の場面を継続して伝えていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	
①	事業所内で開催している「ものづくり活動」への参加など、地域の方が寄れる取り組みや一緒に考えるなど連携する関係が整っていない。
②	グループホームと合同で毎月「やたの新聞」を作成し、地域に配布している。町内の回覧板でも回覧を再開している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	3	3	3	3	12
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	4	2	2	4	12
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	7	3	1	1	12
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	2	1	6	3	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	<ul style="list-style-type: none">・南部高齢者総合相談センターが開催しているミニ地域会議へスタッフ全員が参加できているまでの状況ではないが、スタッフが交代で参加している。・利用者が入院となった場合や新規で病院からの相談があった場合は、退院に向けた調整や在宅復帰のための調整を病院のワーカーや福祉用具などの事業所と相談、調整を行っている。・事業所が開催する運営推進会議に小松市の職員や南部高齢者総合相談センターの職員、地域の方が多く参加しており、その会議の中で参加者からの意見を聞いている。・コロナが5類となり、町内で開催されているお祭りや活動に参加する機会が増えてきている。2カ月に1回、地域の方がミュージックケアで事業所を訪れ、利用者と一緒に活動している。・地域交流の担当スタッフを新たに設置し、そのスタッフが中心となって情報や案内としてあった地域の行事への参加を調整している。家族にも情報提供し、一緒に参加している状況がある。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	<ul style="list-style-type: none">・地域の方が気軽に事業所を訪問できる関係性ができていない。地域の誰に相談していくのかの情報が薄

- く、きっかけが持っていない現状がある。
- ・玄関周り（外・内）に訪問につながるための工夫が薄い。気軽に立ち寄れる雰囲気や環境も十分に整っていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① 毎週木曜日に取り組んでいる「ものづくり活動」の場面を活用し、地域の方に案内し、参加を呼びかける。
 - ・地域の方が求めていること、どのような場所があると良いのかという情報が得ながら、地域の方と「ものづくり活動」の内容一緒に考えていただけるような関係性を作る。
 - ・地域交流係が中心となり、地域の誰に相談するとよいのか情報収集し、相談していく。そこから得た意見を参考に活動係と協力して企画立案していく。
- ② 地域の方が立ち寄りやすい環境を整える。
 - ・外周の雰囲気作り。立ち寄れる場所であることが分かる看板の設置、花壇の整備など
 - ・地域の方が集い、話ができる企画の立案と案内。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年11月10日(17:00~18:00)

7. 運営

メンバー 小中・茨木・高島・川端・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	4	6	2	12

前回の改善計画

① 意見箱を設置し、利用者本人、家族、地域の方の意見を聞ける環境を整える。
・意見箱を活用しやすい方法として、事前に書いた用紙が投函できるように、家族には毎月の請求書送付時「意見や要望」が記入できる用紙を同封する。
 ・頂いた意見について、確認・見直し・取り組みにつなげる方法をマニュアル化する。

② 定期的な訪問や本人・家族を交えたカンファレンスを開催し、利用者本人・家族の意見や要望を聞ける体制を作る。その意見や要望について、その理由を含めて具体的に記録に残し、スタッフ間で話し合いを持ち、その内容を本人や家族に確実に返していく体制を整える。

③ スタッフ同士が提案や意見が出しやすい環境、雰囲気を作る。
・スタッフ一人ひとりが相手の話や意見を「まず受け入れる(聞く)」「言葉や行動の意味を確認する」姿勢を持つ。

前回の改善計画に対する取組み結果

① 意見箱は設置しているが、意見や要望等が入っている実績がなく、活用できていない。意見が出しやすいように家族に毎月の請求書送付時「意見や要望」が記入できる用紙を同封する取り組みも進んでいない。意見や苦情を出せるための意見箱設置のお知らせが家族や地域に向けてできていない。

② 利用者本人、家族を交えてのカンファレンスを実施した場合は、その中で出た意見や要望を記録に残し、必要に応じてスタッフ間で話し合いを行っている。ただ、利用者本人・家族を交えてカンファレンスの開催の機会が少ないため、全員から意見や要望を聞いている状況までには至っていない。

③ スタッフ間は意見が出しやすい環境である。相手の意見を最初から否定せず、相手の意見を聞くことや意見の偏りをなくすためにスタッフ間で話をして、多くのスタッフの意見を聞いているという意見もあれば、自分自身の意見が出しにくい、受け入れてくれるという雰囲気がないという意見もあり、スタッフによって感じ方に差が見られる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているですか?	1	7	4	0	12
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	9	1	0	12
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	5	6	0	12
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	0	6	6	0	12

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・事業所のあり方やサービスの内容について、ミーティングなどを活用し、スタッフ間で話し合う時間を作っている。ミーティングの中では意見が伝えやすい雰囲気はある。
- ・利用者から伝えられた意見や要望はスタッフ間で共有できている。利用者から意見や要望を伝えやすい雰囲気、関係性を作っている。
- ・利用者、家族からの意見や要望を聞き、どのようにしていくかスタッフ間で話し合い、適切なタイミングで対応できている。
- ・運営推進会議を令和5年度から集合で開催し、地域の方や家族からの意見や要望を確認する機会となっ

ている。また、その会議の中で地域での課題や取り組んでいる活動の状況などを知る機会となっている。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none">・ミーティング等で話し合った内容が実践できていない状況や実践状況を検証する状況が少なく、話し合っ て終わっている状況がある。・家族と話をする機会がまだ少なく、全ての利用者の家族からの意見や要望が聞けている状況には至って いない。・地域の方が事業所を訪問することや普段から交流する機会がまだ少なく、地域の方からの意見や苦情を 確認する機会が持てていない。そのため地域からの意見が運営に十分に反映できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none">① 意見箱を設置し、利用者本人、家族、地域の方の意見を聞ける環境を整える。<ul style="list-style-type: none">・意見箱を活用しやすい方法として、事前に書いた用紙が投函できるように、家族には毎月の請求書 送付時「意見や要望」が記入できる用紙を同封する。・毎月の通信を利用して、意見箱を設置しているお知らせを行う。② 定期的な訪問や本人・家族を交えたカンファレンスを開催し、利用者本人・家族の意見や要望を聞け る体制を作る。その意見や要望について、その理由を含めて具体的に記録に残し、スタッフ間で話し 合いを持ち、その内容を本人や家族に確実に返していく体制を整える。③ スタッフ同士が提案や意見が出しやすい環境、雰囲気を作り、話し合った内容を確実に実践につなげ る。<ul style="list-style-type: none">・スタッフ一人ひとりが相手の話や意見を「まず受け入れる（聞く）」「言葉や行動の意味を確認する」 姿勢を持つ。・ミーティングで決まった取り組みについて、毎日の申し送り実践状況の確認を行い、翌月のミー ティングで取り組みの検証を行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年11月10日(17:00~18:00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 小中・茨木・高島・川端・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	8	0	1	12

前回の改善計画	
①	<u>担当者(サービス向上委員)を決め、ミーティングを活用し、そのスタッフが中心となり毎月の事故報告やひやりはっと報告を振り返り、スタッフのリスクマネジメントに関する意識を高める。ひやりはっと報告の意識を高めるために、その意義や様式の説明を行う機会を持つ。</u>
②	スタッフとの面接を定期的実施し、学びたいことやスキルアップしたいことを確認し、研修計画に反映させ、参加できるように体制を整える。研修案内を継続して行い、スタッフが学びたい研修に参加できる体制を整える(なぜ学びたいのか、学んだことを職場でどのように活用するのかを事前に確認する)
③	<u>ミーティングや学習会(職場内研修)に参加しやすいように、オンラインを活用して参加できる方法を整える。</u>

前回の改善計画に対する取組み結果	
①	ミーティングで事故・ひやりはっと報告の振り返りを行うことで、リスクマネジメントや再発防止への取り組みの意識が高まっている。スタッフの気づきや学びの機会となっている。事故やひやりはっとが発生した場合は、スタッフ全員が確認できるように速やかに報告書を作成し、回覧している。
②	スタッフの面接を5月~6月に実施し、スタッフが学びたいことや事業所として学んで欲しいことを共有し、研修計画につなげている。自分が学びたいこと、参加してみたい研修を伝えられていない、伝える機会が持てていないと感じているスタッフもいる。
③	ミーティングについては、その時間に集合しにくいスタッフに向けたオンラインを活用した取り組みまでは行えなかったが、スタッフからは参集形式にした方がお互いに意見交換がしやすいという意見や参集という形のほうが参加しやすいという意見が聞かれる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	9	1	1	1	12
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	5	4	2	1	12
③	地域連絡会に参加していますか	3	3	2	4	12
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	3	6	3	0	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・職場内、職場外共に研修に参加しやすい環境がある。研修などのお知らせが事務所に貼ってあり、希望する研修があれば、参加できるように調整している。参加した研修は各委員会や事業所ミーティングの中で報告している。 ・令和5年度より障害の自立支援協議会に参加している。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・スキルアップのための研修への参加状況はスタッフによって差がみられる。 ・地域連絡会などの参加の目的や意味がスタッフ間で徹底されていないため、参加するだけの状況となっており、会議内容の報告やこれからのことにつなげるという状況までには至っていない。	

- ・事故やひやりはっと報告を毎月のミーティングで行うことが抜けてしまう場合があり、リスクマネジメントについて毎月、話し合えている状況までには至っていない。サービス向上委員が意識して働きかける状況にも至っていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① サービス向上委員を担当者とし、ミーティング内容の設定時に、議題として入れていくことを働きあ
つける役目とする。ミーティングを活用し、毎月の事故報告やひやりはっと報告を振り返り、スタッ
フのリスクマネジメントに関する意識を高める。
ひやりはっと報告の意識を高めるために、その意義や様式の説明を行う機会を持つ。
- ② スタッフとの面接を定期的実施し、学びたいことやスキルアップしたいことを確認し、研修計画に
反映させ、参加できるように体制を整える。
研修案内を継続して行い、スタッフから参加希望があった場合は「なぜ学びたいのか」「学んだこと
を職場でどのように活用するのか」を事前に確認した上で、研修に参加できる体制を整える。
- ③ 学習会（職場内研修）に参加しやすいように、オンラインを活用して参加できる方法を整える。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年11月10日(17:00~18:00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 小中・茨木・高島・川端・佐野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	5	4	0	12

前回の改善計画	
① プライバシーを確保に向け、使用後の記録物の片付けや整理整頓を確実に行う。 片付け忘れ等があった場合は、周りのスタッフがフォローできる体制を整える。	
② 事業所内の勉強会を計画的に開催する(成年後見制度、身体拘束・虐待防止など)。	
③ 権利擁護委員が中心となり、権利擁護やプライバシー保護について、定期的に見直す、振り返る機会を持つ。スタッフが1年を通して意識できている、気を付けることができる環境を作る。 ・ミーティングを活用し、定期的(半年に1回)に姿勢や取り組みの確認、見直しを行う。 ・毎日の申し送りの場面を活用し、毎月1回(各月の1日)振り返る。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
① 利用者個々のファイルや業務日誌などの片付けを忘れてしまう場合もあるが、前回の自己評価時と比較すると記録物を片づけるなど、プライバシーへの配慮の意識が向上している。	
② 事業所内での勉強会を計画し、開催するまでの機会は持てなかった。	
③ スタッフ個々の姿勢や声かけが身体拘束となっていないか確認しながら支援している。毎年、権利擁護委員が中心となり、権利擁護やプライバシー保護について具体的な状況を見直す機会を作っている。権利擁護・個人情報保護委員会での話し合いの後、各事業所で学習会が開催されている。権利擁護やプライバシー保護について、申し送りやミーティングで振り返る機会はあるが、月1回と決まった状況での振り返りまでは行っていない。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	9	3	0	0	12
②	虐待は行われていない	9	3	0	0	12
③	プライバシーが守られている	2	7	3	0	12
④	必要な方に成年後見制度を活用している	6	4	1	1	12
⑤	適正な個人情報の管理ができている	2	10	0	0	12

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	・スタッフ同士でフォローしながらプライバシーの保護などの環境を整えている。 ・成年後見制度を利用されている方の後見人と情報交換や必要な連絡を取り合っている。 ・申し送りなどは周りの人に話の内容が聞こえない場所で実施することを意識している。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	・利用者の支援におけるスタッフの心理的な負担を確認する機会やサポートする体制への取り組みに課題がある。 ・身体拘束や虐待についてのグレーゾーンや事例検討など、スタッフ間で考える機会が十分に持てなかった。人権やプライバシーに関するスタッフの知識を向上させていく勉強会などの取り組みが十分ではなかった。毎月のミーティングの議題設定時に権利擁護やプライバシー保護の項目を入れることができ

いない。

- ・申し送りなどの情報交換時の声の大きさや場所の配慮などが欠けることで、利用者個々の話しは他の方に聞こえている状況が多い。トイレなど利用者に声をかける時に配慮が欠け、周りの人の聞こえる状況がある。プライバシーへの配慮という部分の意識が薄くなってしまっている状況がある。全体的に声の大きさを落とすことを意識する必要がある。「自分だったら…」と考える意識も薄い。声が聞こえにくい利用者への声のかけ方、ジェスチャーやサインの活用などの工夫について話し合う機会が持てなかった。
- ・利用者個々の記録や業務日誌など記録中に、利用者の支援などでその場を離れる必要がある時に、すぐに対応しなければと気持ちがあり記録物の片付けを忘れてしまう状況がある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ① プライバシーを確保に向け、使用後の記録物の片付けや整理整頓を確実に行う。
片付け忘れ等があった場合は、周りのスタッフがフォローできる体制を整える。
- ② 事業所内の勉強会を計画的に開催する（成年後見制度など）。
- ③ 権利擁護委員が中心となり、権利擁護やプライバシー保護について、定期的に見直す、振り返る機会を持つ。スタッフが1年を通して意識できている、気を付けることができる環境を作る。
 - ・ミーティングを活用し、定期的（半年に1回）に姿勢や取り組みの確認、見直しを行う。
 - ・毎日の申し送りの場面を活用し、振り返る。
- ④ 利用者の支援において、スタッフの心理的な負担の確認やサポートする体制を整える。
 - ・スタッフとの面接の機会を利用しての確認
 - ・スタッフ個々の様子を知り、チームで支える体制の整備